

病院だより

Vol.5 2010 春号
2010年3月1日発行


ココロとカラダのメディカル通信

〒336-0931 さいたま市緑区原山3-15-31 TEL:048-882-2867 FAX:048-882-2887 URL:http://www.kyosai-hosp.or.jp/ 発行人:星野 徹

非常勤(内科)医師ご紹介

当院では非常勤医師による専門外来診療を行っております。今回は、内科系の非常勤医師をご紹介します。それぞれ経験豊富な医師ですので、ぜひお気軽にご相談ください。

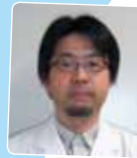
月



関根 かおり
平成9年(1997)
獨協医科大学 卒

獨協医科大学越谷病院
呼吸器内科研究員


火



藤井 康友
平成4年(1992)
自治医科大学 卒

日本内科学会総合内科専門医/臨床検査医学会専門医/超音波医学会専門医・指導医/消化器病学会専門医 など
自治医科大学附属病院(栃木県下野市)で臨床検査(主として超音波検査)に従事しています。


水



金井 義彦
平成9年(1997)
自治医科大学 卒

自治医科大学
さいたま医療センター
呼吸器外科 勤務
日本外科学会専門医
日本呼吸外科学会専門医

木



荒尾 憲司郎
平成7年(1995)
自治医科大学 卒

現在、自治医科大学さいたま医療センター 循環器科所属(助教)
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本医師会認定産業医

内科外来診療担当医


受付時間		月	火	水	木	金	土
午前 8:50 ~ 11:30	内 科	関根	仲 (皮膚科)	村山 (皮膚科)	荒尾	加園 (糖尿病)	仲 (皮膚科)
	内 科 予約再来	田代	藤井				本松
	専門外来		藤井 (消化器)		荒尾 (循環器)	鷺原 (消化器)	生井 (糖尿病)
午後 1:00 ~ 5:00	内 科	関根	藤井	田代	村山 (皮膚科)	仲 (皮膚科)	
	専門外来		藤井 (消化器)	田代 (消化器)	荒尾 (循環器)		
	専門外来			金井 (呼吸器)			

検査

■胃内視鏡 火・金午前
■大腸内視鏡 金曜日午後

生井先生(糖尿病)の専門外来は予約制となっております。


金



加園 恵三
昭和58年(1983)
信州大学医学部 卒

現在、城西大学薬学部教授
専門は、内分泌代謝内科学、臨床栄養学ですが、糖尿病や脂質異常症をはじめ生活習慣病の診療に広く携わっています。


金



鷺原 規喜
昭和60年(1985)
自治医科大学 卒

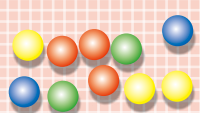
自治医科大学さいたま医療センター
消化器科 勤務
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会指導医
日本消化器病学会専門医
日本がん治療 認定医機構 がん治療認定医
日本ヘリコバクター学会 ヒロリ菌感染症認定医

土



生井 一之
昭和57年(1982)
東北大学医学部 卒

さいたま赤十字病院
糖尿病内分泌内科部長
糖尿病内分泌内科
日本内科学会専門医
日本糖尿病学会専門医
日本医師会認定産業医



中高年の心の健康

第10回 共済病院健康教室

第10回共済病院健康教室は、『中高年の心の健康』をテーマに恩賜財団済生会鴻巣病院の渡嘉敷暁先生にご講演を戴きました。

テーマは、過去のアンケート結果で、「心の病について」という希望が多かったこと等から今回は中高年者を対象に、この年代層が比較的陥りやすい、睡眠、ストレス、うつ病、アルコール依存症の4疾患を取り上げました。

講演は、まず人間の心の基本である「睡眠」から入り、眠ることの意義、睡眠阻害要因、睡眠時間と疾病の関係、よりよく眠るために、と様々な実例を挙げながらお話を展開されました。お話の中で、「中高年は、1日6～7時間程度の睡眠が適度であり、これよりも少なくてもあまり問題ないが、8～9時間眠る人はリスクが高くなる」と言及されたことが印象に残りました。

次に「ストレス」に移り、「ストレスは仕事や年のせいなどと軽く見られがちであるが、疲労感から脱力感に陥ったり、逆に興奮に変わったりする時期（第2期：抵抗期）に入ったら精神科の領域である。またストレスの解消は、早い時期なら一人でも出来る」として、毎日の生活の中にレクリエーション、睡眠、趣味を持つことの3要素を取り入れることを提唱されました。

次に「うつ病」ですが、ここではうつ病の定義、タイプ、自覚症状、うつ病の人への対処方法の順にお話を戴きましたが、かつて『高齢者の自殺の70～80%はうつ病を背景に

している』と言う話を聞いたことがあったので、先生が「うつ病は自分も周囲の人も辛い病気であるが、早めに治療すれば治って元気になる」と言われたことにホッとする思いでした。

最後は「アルコール依存症」ですが、うつ病で眠れない→寝酒をする→依存症になる、と言うパターンが多いこと、逆にアルコール依存症ではうつ病になる割合が高くなることに言及され、アルコール依存症の定義、患者の問題行動、立ち直るための原則について分かりやすくお話し戴きました。結びに「アルコールは一般に言われているとおり、適量に飲めば百薬の長である」とのことで、厳しいお話の中にも多少の安堵を感じた講演会となりました。



博仁会共済病院に 絵画を展示して

どんぐりの会は、いさがい大学伊奈学園17期美術工芸科卒業生が構成する会で、学園で2年間学んだことを社会貢献活動として実践できないものか検討していました。

そこで、素人が描いた絵ですが、少しでも病院に来られる皆さんの心の癒しとなる雰囲気づくりのお手伝いができればと思い、博仁会共済病院の杉野理事さんに私たちの計画をお話したところ、病院内で相談をさせていただき、患者さんの待合所に絵画の展示をしてはどうかとの返事をいただきました。

私たちの絵が皆さんからどのような評価を受けるのか、いささか心配でしたが、心を込めて描いた作品を3ヶ月づつ4期に分けて右記のとおり実施することになりました。

各会期ごとに、挨拶文、各人のプロフィールを掲載いたしました。

先日、今年度最終となる絵画の展示を行い、今後は鑑賞して下さった方々のご意見を糧として取り組みたいと思っています。

私たち「どんぐりの会」会員は、健康な身体を維持するだけではなく、これまでに得た知識や経験を培いボランティア活動の一環として地域社会に貢献できた喜びを一同かみ締めています。

また、私たちは最近発行された病院だよりを読み、博仁会共済病院の理念、基本方針の「地域の方々から信頼される病院を創る」に賛同し、これから私たちでできる社会活動を模索して行きたいと思っています。

(どんぐりの会 会員・中村泰明)

- 第1期 4月～6月 油彩画、水彩画
- 第2期 7月～9月 日本画、水墨画、絵手紙
- 第3期 10月～12月 水彩画、きり絵
- 第4期 1月～3月 油彩画、水彩画、きり絵

